

令和6(2024)年度栃木県普及指導活動外部評価結果

1. 評価

事務所名	河内農業振興事務所			
評価対象事例名	いちごの若手生産者の育成と生産性向上			
項目	視点	評価		
		A	B	C
取組の背景・ねらい	①現状や問題についての分析は十分か	6	0	0
	②問題点に対し、適切な課題が設定できているか	4	2	0
	③施策に合わせた目標を設定しているか	1	5	0
活動対象・活動の内容	④活動対象の選定は適切か	5	1	0
	⑤課題や活動対象に対し、活動方法は適切か	4	2	0
	⑥市町・JA等関係機関や試験研究機関との連携は図られているか	3	3	0
	⑦活動は計画的かつ効率的に実施されているか	5	1	0
	⑧農業者との信頼関係を築き、普及活動を行っているか	3	3	0
活動の成果・今後の対応策	⑨実績に対する要因分析がされているか	3	3	0
	⑩残された課題について検討されているか	3	3	0

- (1) 評価項目は、各項目の視点に基づき評価する。
 (2) 評価基準は、消費者視点も踏まえた上で、以下の3段階とする。
 A: 良好である B: 普通である C: 不良である
 (3) 評価における数値は、評価対象事例の各項目に対して、A～Cを評価した外部評価委員数を表している。

2. 評価委員の意見

- 「とちあいかの普及」そのものは順調に進んでいると思われた。
- いちご産地の維持に対する成果が不明瞭だった。
- 単収の向上については、個々の栽培技術の習得で十分なのか不明である。
- 新規栽培者が増加している点は評価できる。
- 若手生産者や「いちご団地」新規栽培者への地域ぐるみの手厚い経営支援体制や個別指導等が成果を上げている。
- 新旧の生産者間で情報共有する等、今後も全体でのパワーアップにつなげて欲しい。
- 担い手が減少するなか、新規就農者の確保と育成を推進していくことは重要であり、関係団体と連携し、経営の安定に向けきめ細やかな対応がとれている。
- 経営開始に当たっては相当額の費用や生活費も不安視されることから、補助金や融資のことなど触れてみることも必要かと思われた。また、目標に「生産性向上」としていることもあり、単収の具体的な金額、数値等の記載がある

と良かった。

○今後も経営が安定するまでのサポートをよろしく願いたい。

○本県特産のいちごを巡り、農地整備に合わせた栽培団地に特化した取り組みの現状と課題をテーマにした。

○とちあいかの栽培研修会や新規栽培者らを中心とした個別指導の実践も説得力があった。

○いちごは収穫の際の腰などへの負担が大きいと聞く。高齢者対策でこの点への対策が欲しかった。

○温暖化対策を見据えた対応や女性のあり方についても具体的な提言があればなお良かった。

○「とちあいか」にポイントをしぼり、普及活動に力を入れている。

○多様化する農家と新規者、高齢者の両面より支援している点が評価できる。

○いちご団地のR5、R6年の経営状態など分かると良かった。